








この本であつかう できごと年表

時代	江戸	明治	明治	大正	
年代	1853年 1854年 1858年 1860年 1862年 1863年 1866年 1867年 1868年 1871年 1872年 1873年 1874年 1877年 1881年	1882年 1885年 1889年 1890年 1894〜95年 1895年 1900年 1902年 1904〜05年 1905年 1910年 1911年 1912年 1914年 1915年 1918年 1919年 1920年 1923年 1925年			
日本のできごと	<p>ペリーが浦賀(神奈川県)に来航する</p> <p>日米和親条約を結ぶ</p> <p>アメリカなどと修好通商条約を結ぶ</p> <p>安政の大獄が起きる</p> <p>井伊直弼が暗殺される(桜田門外の変)</p> <p>薩英戦争が起きる</p> <p>生麦事件が起きる</p> <p>薩長同盟が結ばれる</p> <p>徳川慶喜が15代将軍になる</p> <p>徳川慶喜が朝廷に政権を返す(大政奉還)</p> <p>王政復古の大号令が発せられる</p> <p>鳥羽・伏見の戦いが起こる(戊辰戦争)</p> <p>五箇条の御誓文が発せられる／元号を「明治」に改める</p> <p>廃藩置県がおこなわれる</p> <p>学制が公布される</p> <p>徴兵令が発せられる／地租改正がおこなわれる</p> <p>征韓論にやぶれた西郷隆盛と板垣退助が政権を去る</p> <p>民撰議院設立の建白書を提出する</p> <p>西南戦争が起こる</p> <p>板垣退助が自由党を結成する</p>	<p>大隈重信が立憲改進黨を結成する</p> <p>内閣制度が始まり伊藤博文が初代内閣総理大臣に</p> <p>大日本帝国憲法が公布される</p> <p>第1回の帝国議会が開かれる</p> <p>日清戦争</p> <p>下関条約が結ばれる</p> <p>清の国内で義和団戦争が起きる</p> <p>日英同盟が調印される</p> <p>日露戦争</p> <p>ポーツマス条約が結ばれる</p> <p>韓国併合</p> <p>第一次世界大戦が始まる</p> <p>元号を「大正」に改める</p> <p>関税自主権を回復する</p> <p>韓国内で</p> <p>米騒動が起こる</p> <p>中国に対して二十一カ条の要求をする</p> <p>関東大震災が起こる</p> <p>第1回メーデーが開催される</p> <p>ベルサイユ条約が締結される</p> <p>治安維持法が制定される</p>	<p>「ええじゃないか」が起きる</p> <p>徳川慶喜</p> <p>木戸孝允、西郷隆盛</p> <p>新橋・横浜間に鉄道が開通</p> <p>岩倉使節団を欧米に派遣する</p> <p>明治維新</p>	<p>伊藤博文が暗殺される(1909年)</p> <p>ロシア革命が起こる(1917年)</p> <p>国際連盟が設立される</p>	
関連する人物・できごと	<p>下田・箱館(函館)の開港</p> 				  

ペリーの来航から開国へ

- 1853年 **ペリーが浦賀に来航する**
- 1854年 **日米和親条約を結ぶ**
- 1858年 **アメリカなどと修好通商条約を結ぶ**
- 幕府が反対派をきびしく弾圧する(安政の大獄)
- 徳川家茂が14代将軍となる
- 1860年 **井伊直弼が暗殺される(桜田門外の変)**
- 1862年 **薩摩藩士がイギリス人を殺傷する(生麦事件)**
- 1863年 **長州藩が下関で外国船を砲撃する**
- 薩英戦争が起きる

ここが知りたい!

- 1 **「黒船」の来航に混乱する幕府** → p.7
- 2 **日米和親条約を結ぶ** → p.7
- 3 **日米修好通商条約により「鎖国」が終わる** → p.7
- 4 **安政の大獄と井伊直弼の暗殺** → p.8
- 5 **激化する攘夷運動** → p.9

1 1853年、アメリカの軍人ペリーが軍艦で日本の港に入り、日本に開国を求めます。幕府は通商条約を結んで貿易港を開放し、日本の鎖国政策は終わりました。幕府が天皇の許可を得ずに不平等な条約を結んだことを批判する反対派に対し、大老井伊直弼はきびしい弾圧をおこないます。その結果、井伊は暗殺され、政情も不安定になり、幕府の権威が失われることにつながります。

アメリカは、北太平洋での捕鯨や中国と新しい貿易ルートをつくるために、食料や燃料を補給するための港がほしくて日本に開国をせまったんだ

1 「黒船」の来航に混乱する幕府

1853年、アメリカの軍人ペリーが4隻の軍艦をひきいて浦賀(神奈川県)沖に来航し、日本に開国を求めました。見たこともない大きな黒い船に人々はおどろき、「黒船」とよびました。幕府は翌年に返答することを約束し、黒船はいったん引き上げますが、どう対応するかについて幕府は天皇や大名たちに意見を求めました。これをきっかけに、これまで政治にかかわることを許されなかった朝廷や大名が幕府に意見しはじめるようになります。

黒船について一般の人々の関心は高く、多くのかわら版が発行された
写真: 横浜開港資料館



海岸の茶店は黒船をながめる人々でにぎわったという(黒船来航風俗絵巻)
写真: 埼玉県立歴史と民俗の博物館

日米和親条約(要約抜粋)

- 第1条 日本とアメリカの間には人・場所の例外なく、今後永久に和親が結ばれる。
- 第2条 日本は下田と箱館(函館)を開港し、アメリカは必要に応じて食料や水・燃料などの供給を受けられる。
- 第5条 下田と箱館(函館)に住むアメリカ人は行動の制約を受けない。
- 第8条 アメリカが要求する物資は日本の役人が斡旋する。
- 第9条 アメリカに認めた以上の有利な条件を他国に認めた場合はアメリカにも同じ条件を認めなければならない。

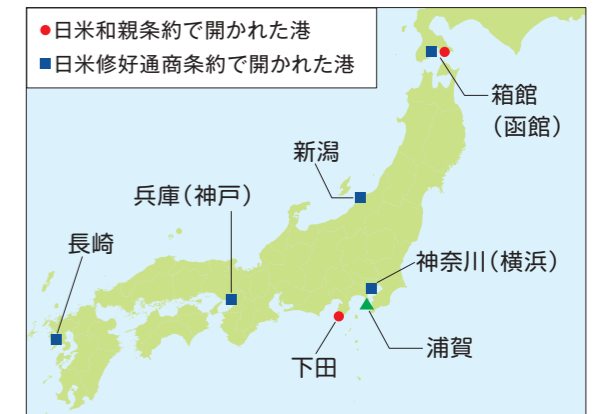
2 日米和親条約を結ぶ

翌年、ペリーは再び来航し、開国をせまります。開国反対の声が多いにもかかわらず、幕府は日米和親条約を結びます。アメリカ船への水、食料、燃料などの物資供給や、下田(静岡県)、箱館(函館)(北海道)の開港、下田への領事館設置など、日本の一方的な義務だけが定められた条約でした。その後、イギリス、ロシア、オランダとも同様の条約が結ばれることとなります。

3 日米修好通商条約により「鎖国」が終わる

アメリカ総領事ハリスは、幕府にアメリカとの貿易をはじめよう強く求めます。そして幕府の大老井伊直弼は、天皇の許可を得ずに日米修好通商条約を結びます。これにより、箱館、神奈川、長崎、新潟、兵庫の5つの港を貿易港として開港。外国との貿易がはじまり、20年以上続いた鎖国の状態は終わることになります。

日米和親条約、日米修好通商条約で開かれた港



ここもふかぼり! **日本にとって不平等だった条約**

にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく
日米修好通商条約は、アメリカ人が日本の法律で裁かれない「治外法権」や、輸入品に対する税を日本が決められる「関税自主権」がないなど、日本に不利な条件の条約でした。さらにその後、同様の条約がオランダ、ロシア、イギリス、フランスとも結ばれます。



条約を結ぶために江戸城へと入るハリス
写真：一般財団法人 黒船館

知りたい! **4 安政の大獄と井伊直弼の暗殺**

てんのう きよか
天皇の許可なく外国と条約を結んだことで井伊直弼に対する批判が高まり、井伊は反対派の公家や大名などをきびしく処分し、長州藩の思想家の吉田松陰らを処刑します。安政の大獄とよばれたこの対応は反発を招き、1860年、井伊直弼は江戸城の桜田門外で暗殺されます（桜田門外の変）。これによって幕府の権威は失われます。

キーワード **治外法権**

外国人が居住するその国の法律にしたがわなくてもよいという権利のこと。アメリカ人が日本人に対して日本で罪をおかしても、日本人には裁く権利が認められなかった。



桜田門外の変図(蓮田市五郎画) 写真：茨城県立図書館蔵(茨城県立歴史館保管)

ここもふかぼり! **尊王攘夷運動の広がり**

幕府の政治に不満をもつ人々のあいだで、天皇に政治を任せろべきという「尊王論」と、日本から外国人を追いはらうべきという「攘夷論」が広まります。この2つの考えが結びついた尊王攘夷論は、江戸幕府をたおそうとする動きの原動力となっていきました。

幕府をたおし、のちの明治政府で中心的なはたらきをする人物を多く出したのが、薩摩藩(鹿児島県)、長州藩(山口県)、土佐藩(高知県)、肥前藩(佐賀県)の4藩で、あわせて「薩長土肥」とよばれます。

- 薩摩藩: 西郷隆盛、大久保利通
- 長州藩: 桂小五郎(木戸孝允)、高杉晋作、伊藤博文、大村益次郎
- 土佐藩: 坂本龍馬、中岡慎太郎、後藤象二郎、板垣退助
- 肥前藩: 大隈重信、江藤新平

知りたい! **5 激化する攘夷運動**

おうべい せいりよく ぶりよく
欧米の勢力を武力で追いはらおうとする攘夷運動ははげしくなり、薩摩藩士がイギリス人を殺傷する生麦事件や、長州藩が下関を通過する外国船を砲撃する事件が起こります。しかしいづれも外国勢の反撃にあい、圧倒的な力の差を痛感した両藩は近代的な軍備を進め、幕府をたおして新しい国づくりをめざす「倒幕(討幕)運動」へと考えをかえていきます。



生麦村(神奈川県)で起きた生麦事件の様子をえがいた錦絵。事件の翌年には薩英戦争へと発展する
写真：神奈川県立歴史博物館

ここもふかぼり! **開国が引き起こした経済不安**

開国で貿易がさかんになる一方、輸出品として人気の生糸や茶は国内で不足し、米・麦・大豆などの値段も上がります。また、外国産の安い綿織物が輸入されたため国内の綿織物業は大打撃を受けるなど経済は混乱します。さらに、日本の金が海外へ流出して金不足となったため、幕府が粗悪な金貨を流通させたことでさらに物価が上がり、下級武士や庶民の生活は苦しくなりました。



さまざまな商品が値上がりし、それを引きずりおろそうとする様子をえがいた風刺画
写真：日本銀行貨幣博物館

幕府や将軍を守るうとする「佐幕派」

尊王攘夷の思想のもと、幕府をたおそうとする「倒幕(討幕)派」に対し、将軍への忠誠を守り、江戸幕府の秩序を維持しようとする勢力を「佐幕派」といいます。代表的なのが、京都で治安維持の役割をになった新選組です。新選組は、尊王攘夷派をおそった池田屋事件などで活躍しましたが、倒幕の流れを止めることはできませんでした。



勤王派の坂本龍馬が幕府の役人におそわれた寺田屋
写真：Adobe Stock